

保育の質について（意見提出）

大石亜希子（千葉大学）

- 保育サービスには需要者である親にとってのサービスと、子どもにとってのサービスの二面性があります。
- 親にとってのサービスの質は、夜間保育や休日保育の有無、通勤の利便性など、消費者の観点から評価しやすいものです。しかし、子どもにとってのサービスの質をどうはかるかは難しい問題です。保育は教育と同様に投資としての側面があり、質の善し悪しが子どもの成長に影響するだろうことは想像に難くありませんが、最終的には子どもの成長を見届けなければ判断できないので評価に要するタイムスパンも長くなります。
- したがって、質の悪い保育が将来もたらす危険性を親や社会が十分に認識していない場合や、近視眼的な行動をとる場合には、質への需要は過少になります。
- アメリカの研究（Cryer and Burchinal 1995）によると、専門家が評価する場合と比較して、親たちは自分の子どもが受けている保育の質を高め評価しがちだそうです。とくに、乳幼児の保育については、高め評価するバイアスが大きいということも報告されています。
- つまり、何らかの政策的誘導がなければ、質の高い保育に対して、親たちはそれに見合ったお金を払おうとしないということを意味します（ブラウ 2003）。その傾向は、保育サービスが通常財であるならば、低所得層の親ほど強いでしょう。
- 保育園探しには、探索費用（サーチ・コスト）もかかります。認可外の保育園を探す場合、高所得世帯は情報収集能力もあり、納得のいく施設をみつけるまで別の保育手段を利用する余裕もあるでしょうが、就業の緊急度が高い低所得世帯ほど、長期的にみた子どもの利益追求よりも現在の所得機会を確保するためにサーチをやめざるを得ません。そのため、質に問題があっても手近な保育園を選択しがちになり、本来は市場から淘汰されるべき業者が残ってしまうこととなります。
- 保育の質については、教育におけるのと同様にピア効果も考慮する必要があります。つまり、子育てに熱心な親やその子どもが集まる保育園では、相乗効果で保育の質が高まると考えられます。
- 保育における直接契約制の導入に関しては、学校選択制を巡る議論が参考になると思います（小塩 2007）。

（参考文献）

- D.M.ブラウ（2003）「米国の保育政策に関する経済学的考察」『季刊社会保障研究』第39巻第1号, pp.28-42.
- Cryer, D. and M. Burchinal(1995)“Parents as Child Care Consumers,” in S.W. Helburn (ed.) “Cost, Quality, and Child Outcomes in Child Care Centers, Technical Report,” Denver: Department of Economics, Center for Research in Economic and Social Policy, University of Colorado at Denver, June: 203-220.
- 小塩隆士（2007）「学校・生徒の格差拡大も」日本経済新聞 2007年12月3日朝刊。